

# 明治の近代化への歩み

## 認定理由

京都は明治維新で都の地位を失い、人口の3分の1が減少するなど、都市存亡の危機に直面したものの、市民ぐるみで困難に立ち向かい、全国に先駆けた学区制の小学校の創設や高等教育機関の開設、琵琶湖疏水の建設、日本初の事業用水力発電所の創業や電車事業の開始など、先進的な取組に挑戦して今日の発展の礎を築いた。将来を見据えて人を育て、産業を振興し、文化を創造した明治期における京都の歩みを再確認し、京都の特質やまちづくりの精神を改めて共有することで、これからの京都のあり方を考える契機となる。

## 主な構成遺産

### 番組小学校



柳池校跡

明治2年、当時の住民自治組織であった「番組(町組)」を単位として64の小学校が創設。学校建築資金の多くが番組内の有志からの寄付で賄われた。町会議場、防災拠点なども兼ねていた。

### 近代産業



島津製作所創業記念資料館

明治3年、理化学研究教育機関として舎密局が設けられ、多くの技術者を養成した。その一人、島津源蔵は、明治8年、島津製作所を創業し、教育用理化学器械を製造。二代目源蔵は、医療用X線装置、蓄電池などの新分野を切り開いた。

### 伝統芸能



都をどり

都をどりは、京舞井上流三世井上八千代が振り付け、京都府参事榎村正直が作詞したと伝わる花街のをどり。明治5年、第一回京都博覧会の余興としてはじまった。

### まちづくり



新京極

明治5年、寺町通の各寺院の境内を整理して、その門前の寺地を接收し、寺町通のすぐ東側に新しく1本の道路を造り、恒常的に賑わう繁華街を造り上げた。

### 伝統産業



西陣織

明治5年、府はフランスに佐倉常七、井上伊兵衛、吉田忠七の3人を留学させ、ジャカード、バツタン、紋彫機などを導入し、西陣織の技術革新を行った。

### 学術振興



女紅場址

明治5年、女子教育機関として、新英学校女紅場(※1)が開設。12年には府立医学校(※2)、13年には日本最初の公立の絵画専門学校として京都府画学校(※3)が開校。京都染工講習所(※4)の開校(19年)、三高(※5)の移転(22年)、京都蚕業講習所(※6)の創設(32年)とともに、産業振興は人づくりからという理念を实践、大学のまち京都の礎となった。

※1 後の府立鴨沂高校、※2 後の府立医科大学、※3 後の市立芸術大学、市立銅駝美術工芸高等学校、※4 後の市立洛陽工業高等学校、※5 後の京都大学総合人間学部等、※6 後の京都工芸繊維大学繊維学部



京都市立芸術大学

### 京都御苑



京都の都心に広大な緑をもつ京都御苑は、幕末まで宮家や公家の邸宅等が建ち並ぶまちであった。都が東京に移り、これら邸宅等が取り除かれ、明治10年から公園として整備された。現在は環境省所管の国民公園として、市民の憩いの場となっている。

### 琵琶湖疏水



琵琶湖疏水記念館



南禅寺水路閣



インクライン



蹴上発電所

明治の京都近代化政策の最大事業で、京都府知事北垣国道が計画し、18年着工。23年竣工。工学士田邊朔郎が工事を指揮した。24年には日本初の事業用水力発電所が送電開始。更に、京都市三大事業(※7)により、45年には第2疏水が完成。第1疏水関連施設の12箇所は国史跡。蹴上発電所は、世界的な電気電子学会から歴史的な業績をたたえる「IEEEマイルストーン」に認定。

※7 第2代京都市長西郷菊次郎が実施した第2疏水の建設、上水道の布設、道路拡築及び電気鉄道の敷設

### 近代建築



彰栄館

同志社大学今出川キャンパスには、明治期の代表的洋風建築が数多く残る。市内に現存する最古のレンガ造建築である彰栄館(17年)のほか、礼拝堂(19年)、有終館(20年)、ハリス理化学館(23年)、クラーク記念館(26年)は国重要文化財。

### 市電



明治28年、京都に日本初の路面電車が誕生。琵琶湖疏水の水力発電により電力が供給されていた。梅小路公園には、廃止された車両のうち、京都電気鉄道時代の姿に復元・整備された車両が運行。

### 平安神宮



明治28年、平安遷都1100年を記念し、市民の総社として創建。桓武、孝明両天皇を祀る。京都の復興にかけた数多くの人々の心意気を後世に伝える。国重要文化財。時代祭は、平安神宮の創建と平安遷都1100年記念の奉祝行事として始まった市民主体の祭。明治16年に岩倉具視がまとめた京都再生構想の実現でもあった。

### 映画



日本映画発祥の地

明治30年、シネマトグラフを日本へ持ち帰った京都在住の稲畑勝太郎が旧立誠小学校付近で試写を行った。その11年後には、京都「千本座」の座主牧野省三が、日本初の劇映画を制作した。以来、時代劇は京都の映画産業の中核として興隆した。

### 京都岡崎の文化的景観



岡崎は、琵琶湖疏水建設で近代化の礎が築かれ、平安遷都1100年祭及び第4回内国勸業博覧会が開催。南禅寺界隈では別荘開発が進み、疏水の水を活用した庭園群が形成。博覧会跡地には文化施設が建設され、京都を代表する文教地区となる。国重要文化的景観。

注：上記の構成遺産は一例で、上記以外にも市内には多くの明治の近代化への歩みにまつわる文化遺産がある。